

検査結果のご説明

身体計測	腹囲	内臓脂肪の蓄積の程度がわかります。内臓脂肪の蓄積は動脈硬化に関連し狭心症、心筋梗塞、脳梗塞などを起こしやすくなります
	BMI	やせ、肥満の程度を表す指標です
	血圧	血液が血管の中を流れる時の血管の壁にかかる圧力のことです。必要以上に高いのが高血圧です
眼科系	眼圧	眼球の圧力を測定する検査です。緑内障を調べる際には必ず行われる検査です
	眼底	網膜、視神経や血管の状態などをみる検査です。目の病気のほか、高血圧・糖尿病・動脈硬化による血管変化を調べます
尿検査	尿蛋白	尿中に蛋白が出ていないか調べます。腎臓障害により尿蛋白が増えます
	尿糖	尿中のブドウ糖が出ていないか調べます。陽性の場合糖尿病・腎性糖尿などが疑われます
	尿潜血	尿中に混じる微量の血液を調べます。陽性の場合、腎炎・尿路結石・尿路の炎症などが疑われます
	尿ウロビリノゲン	主に肝臓や胆道系の病気を調べる検査です
便潜血	肉眼では見えない微量な出血を検査することにより、大腸癌や大腸ポリープなどの病変の有無をチェックします	
血液一般	白血球数	白血球は細菌などから体を守る働きをしています。感染症や炎症、何らかの原因で臓器に障害が起きると増加します。喫煙で増加することもあります
	赤血球数	赤血球は肺で取り入れた酸素を全身に運ぶ働きをしています。血色素・ヘマトクリット値とともに貧血や多血症の有無などを判断します。貧血ではいずれも低い値となります
	血小板数	止血に重要な役割をはたします。極端に数が減ると血がとまりにくくなります
	血清鉄	血液に含まれる鉄分のことで、血色素の材料の一つです。貧血や肝臓疾患の有無がわかります
脂質検査	総コレステロール	ホルモンや細胞の膜を作る重要な材料になります。多すぎると動脈硬化を起こす原因になるため注意が必要です
	中性脂肪	皮下脂肪の主成分で、糖分の取りすぎや運動不足で増加します。数値が高いと動脈硬化が早く進行します
	HDLコレステロール	善玉コレステロールとも呼ばれ、全身の組織から余分なコレステロールを肝臓に運ぶ働きをしています
	LDLコレステロール	悪玉コレステロールとも呼ばれ、末梢組織にコレステロールを運ぶ働きをします。高いと動脈硬化の大きな危険因子になります
腎機能	尿素窒素 クレアチニン	蛋白質の老廃物で、肝臓で作られ腎臓から尿へ排泄されます。値が高いと腎臓病や脱水などが考えられます
肝・膵機能	AST (GOT)	肝臓・心臓・筋肉・腎臓に多く存在する酵素で、これらの臓器が障害されたときに上昇します。主に肝障害の時に上昇しますが、AST (GOT) は心臓や筋肉の病気でも上昇します
	ALT (GPT)	
	γ -GTP	肝臓や胆道の病気で上昇します。特にアルコール性肝障害や脂肪肝で高い値になります
	LDH	広く全身の細胞に含まれる酵素です。肝臓病、心臓病や血液の病気など様々な病気で上昇します
	ALP	主に肝臓から胆汁中に排泄される酵素です。肝臓病や胆石症などの胆道系の病気で値が高くなります。また、骨の病気や甲状腺機能亢進症でも高くなります
	総蛋白 アルブミン	血液中の蛋白質の量を測り、栄養状態や肝臓・腎臓の障害を判断します
	アミラーゼ	膵臓や唾液腺などに含まれる酵素です。膵臓や唾液腺の病気などで上昇します
	HBs抗原	陽性のときはB型肝炎ウイルスの存在が疑われます
代謝系	血糖(空腹時)	血液中のブドウ糖の量を調べます。食事の影響が強いので空腹の状態で検査します
	HbA1c	過去1～2ヶ月の血糖の状態が把握できます。糖尿病の診断とコントロールの指標になります
	尿酸	蛋白質の一種であるプリン体の代謝産物です。値が高いと痛風や尿路結石の原因になります
免疫	CRP	感染症など急性の炎症や組織の破壊がおこると上昇する蛋白の一つです。炎症の程度の判定に広く使われます

電解質	ナトリウム	体液の維持に重要な役割を果たしています。脱水などで上昇し、腎臓病、ホルモン異常、塩分摂取不足や利尿薬の内服などで低下します
	カリウム	神経伝達や筋肉の運動の調節に重要な役割を果たしています。腎臓病などで上昇し、利尿薬の内服などで低下します
	カルシウム	骨の主成分です。骨や腸管、腎臓の病気、ホルモン異常などで異常値を示します
腫瘍マーカー	AFP	肝細胞癌の腫瘍マーカーです。肝硬変でも上昇します
	CEA	大腸癌など多くのがんで高値を示すことから、がんスクリーニングや経過観察に適しています。長期喫煙者や高齢者で高い値となることがあります
	高感度PSA	前立腺癌の腫瘍マーカーです。前立腺肥大や前立腺炎でも高値になります
呼吸器系	胸部X線	肺炎や肺結核、肺癌の早期発見に欠かせない検査です。心臓肥大や大動脈の状態も知ることができます
	肺機能検査	肺をはじめとする呼吸機能を評価する検査です
循環器系	心電図	心臓の状態をチェックし、不整脈、心肥大、心筋の障害などの診断に役立ちます
	血圧脈波	上腕と足首の血圧の差や脈波の伝わり方を測ることで、比較的太い血管の詰まり具合や、血管の硬さ、動脈硬化の程度を調べます
消化器系	胃部レントゲン	バリウムを使用することによって胃の形状を撮影することができ、食道・胃・十二指腸などの上部消化管の異常がないか調べます
	胃カメラ	胃のレントゲン検査よりもさらに詳細に食道・胃・十二指腸の内部を観察することができます。病変が発見されれば、粘膜の一部を採取（生検）して検査します
	腹部超音波	腹部表面から超音波をあてて肝臓・胆嚢・腎臓・膵臓の形態的な異常がないか調べます。X線とは違い被ばくすることがありません
その他	骨密度	骨の硬さを表す尺度のひとつです。密度が低いと骨粗しょう症といわれ、骨折などを起こしやすくなります
	頭部MRI	脳の断面や血管を画像化し、脳梗塞や脳出血などの頭部の病変の手がかりを調べる検査です
	乳腺	視触診により乳房のしこりや皮膚のひきつれなどの異常がないか調べます。マンモグラフィとは乳腺・乳房専用のX線のことを言い、乳房内の腫瘍や石灰化、乳腺のゆがみなどを見つけます

健康診断を受けたまま放置しないで！

病気や何らかの異常が見つかった場合はもちろんのこと、今回は異常を認めなかった方も、健康な状態を維持するために検査結果をよく見て自分自身の健康状態に注意してください。

「異常を認めません」は完全に健康であるという証明ではありません。異常を認めませんと結果が出た方も、定期的に健診を受けて、何年かの検査結果を比較するなど健康状態をチェックしてください。

『要精密検査』と言われたら？

検診の結果、要精密検査という結果が返ってきたら驚かれる方も多いかと思います。だからといって病気と診断されたわけではありません。疑わしいところがあるから「もう少し詳しく調べてみましょう、もう一度検査してみましょう」という意味なのです。

仮に病気が見つかったとしても、早期発見、早期治療ができれば怖がることはありません。疑わしい部分を解明し健康な生活を送っていただくためにも、怖がらずに必ず受診してください。

みよし市民病院を受診される方は、必ず健康診断の結果をお持ちください

お問い合わせ・ご質問は
みよし市民病院 健診室
TEL 0561-33-3300 (代)
受付時間 月～金/9:00～17:00